

第6回世田谷区地域経済の持続可能な発展を目指す会議議事録

日時：令和5年10月5日（木） 18時00分～20時00分

場所：世田谷産業プラザ3階 大小会議室

■ 出席者

〈委員〉

長山会長、千葉委員、城田委員、竹内委員、見城委員、松原委員、兒玉委員、市川委員
大石委員、田中委員、中山(綾)委員、吉田(亮)委員、大藤委員、吉田(凌)委員

〈世田谷区〉

後藤経済産業部長、納屋産業連携交流推進課長、高井商業課長、
荒井工業・ものづくり・雇用促進課長、黒岩都市農業課長、平原消費生活課長

1. 開会

【納屋産業連携交流推進課長】

それでは定刻になりましたので、只今より「第6回世田谷区地域経済の持続可能な発展を目指す会議」を開催いたします。皆様、本日は大変お忙しい中、ご参加いただき、誠にありがとうございます。

本日でございますが、古谷委員、栗山委員、中山耕輝委員が欠席となりますが、全体の2分の1以上の出席をいただいているということで、会議規則に基づき、会議を開催させていただきます。また、中山綾子委員が、急遽、体調不良によりオンラインということになってございますので追加させていただきます。

次に、配付資料でございますが、次第の下部に記載しておりますので、こちらに沿いまして、ご確認いただきますようお願いいたします。資料の1から5までと参考1までですが、参考2というのも別途配っておりますので、次第には参考2は書いておりませんが、そちらもご覧頂ければと思います。

本日の座席につきましては、クジにより配席をさせていただいておりますので、こちらもご了承いただければと思います。それでは、今後の議事につきましては、会長に進行をお願いしたいと思います。長山会長よろしくようお願いいたします。

【長山会長】

皆さん、こんばんは。本日第6回会議ということになりますので、積極的な議論をお願いいたします。本日の議題は答申案ということになっております。また、関連して皆様からご提案頂きました新たな産業ビジョンの全体のテーマについても議論いただきたいと思います。

それでは早速ですが、議題に入りたいと思います。資料3と4を中心に議論したいと思いますので、事務局より説明をお願いします。資料の3と4と合わせて、参考2の説明をお願いします。

2. 議題

答申案について

【納屋産業連携交流推進課長】

資料の3、4と参考2についてご説明させていただきます。まず、資料3をご覧頂ければと思います。

一枚の裏表紙でございますが、前回議論いただきました答申のメインテーマ、キャッチフレーズ、そういったようなものにつきまして、前回の議論を踏まえて、委員の皆様にもご意見を別途伺いをさせて頂きました。2ページ目の裏に45の案を記載させていただいてございまして、非常にたくさんの案をいただき大変ありがとうございました。それを、1ページ目の表に戻っていただいて、メールでどれが良いかというお話をさせていただいて、その中で抽出をさせて頂いたものを5つ書いてございます。

まず1つ目が「持続可能な地域経済でつくる世田谷のウェルビーイング」でございまして、2つ目が、後ほど少し説明させていただく部分もございまして、**「区民と産業が創造する世田谷のウェルビーイング」**、3つ目が**「わくわくがつなぐ新たな価値と豊かさ」**、4つ目が**「幸循環共創区、世田谷」**、5つ目が**「世田谷で創る、幸せの循環」**という形で、投票をお願いしたところ、票を入れていただいたということでございます。

さらには、意見や感想というのもいくつかいただいておりますが、区民と世田谷区産業の連携、門戸が開かれた行政のあり方、誰でもチャレンジできる環境が期待できるというものですとか、持続可能とか循環というワードが入っているというのが良い、ウェルビーイングや幸せといった区民の姿が入っていることも分かりやすく良いのではという意見をいただいております。

3番目のところでは、区民産業が作るという表現から1歩踏み込んだものとして、かつ、世田谷の新たな価値と豊かさを表現したものとして、ウェルビーイングという表現は、今後の議論もしやすくなるのではないかとございまして。

一方で、カタカナであったり造語というのは、理解が共通化されない場合もあるので、やめた方が良いということであったり、共創区、幸循環というワードに関しては、これまでの議論の中の壁を越えて繋がりめぐる感じが出ていて良いということでもございましてし、区民が覚えやすいスローガンになると良い、というご意見もございました。こういった形で、45のテーマの中から、5つをピックアップしたということでございます。

このあと、説明させていただきます答申の中では、最も得票の多かった、1番の「持続可能な地域経済でつくる世田谷のウェルビーイング」を、暫定的に答申の中には記載をさせていただいております。

次に、資料4の答申案をご覧いただければと思います。まず、目次でございますが、概ね前回ご提示をしたものを踏襲してございますが、2の「産業の状況と課題」ということに関しては、前回は産業の状況というのが2つ、課題というのがもう1つと、別項目として立てていたのですが、実際に筆を進めていくと、状況と課題というのは、裏表というか、連続性のあるものなので、記載の過程の中で、1つにまとめて、連続した書きぶりとさせていただきまして。3の「新たな経済産業政策の方向性」というところに関しても、若干の項目の整理をしながら、記載をさせていただいております。詳細は、中身を見ながらの説明とさせて

ください。

3 ページ目をご覧いただきまして、1 ポツについては、本答申についてということで、前回ご提示したものと変わりありません。2 ポツの「産業の状況と課題」については、まず、「地域経済を取り巻く状況」ということで、地域経済循環の状況を説明させていただいた上で、さらに、それを高める、循環率を高めるような取組み、それが、地域経済の持続可能性を向上させるところに繋がるので、強力に推進していくことが急務である、裏返せば、課題であるというような記載とさせていただいてございます。

4 ページ目に移っていただきまして、ここから、個別のデータなどについて言及させていただいておりますけれども、事業所数の推移は横ばい、やや微減という状況であったり、これまで主要産業と捉えられてきた、卸売・小売、飲食・サービスについては、減少傾向にある一方で、多様な産業の割合が徐々に増加をしていて、多様化が進んでいるという状況であったりというところを説明してございます。

5 ページ目に移っていただきまして、これも従前からお示ししている資料ですけども、「雇用力と稼ぐ力」ということについてですが、雇用力であったり稼ぐ力であったりというところが、小さい産業が多いというのが1 つ課題であると思われるということでございまして、こういったところの産業の活性化を図っていく、売り上げであったり付加価値であったり、そういったところの向上を目指していくことが、個々の事業者の成長であったり、総じて言うと、マクロの地域経済の成長につながるというような、そういったところを課題として捉えている旨を記載してございます。

5 ページ目の下の方ですが、「事業者を取り巻く状況」ということで、こういったところを課題と、個々の事業者は捉えているかということと、販路開拓ですとか生産性の向上、また人手不足の関係、そういったところを課題として捉えているという、状況の説明と課題感の共有をここでしてございます。

さらに、6 ページ目の真ん中あたりでは、「SDGs に対する意識」ということで、今回、非経済的な価値の重要性も軸にする条例になってございますので、SDGs の意識の話を少ししてございます。アンケートに回答した企業の規模など、諸々違うところありますので、一概に比較することはできないにしても、全国と比べると、比較的低い状況にあり、一方で、今後はそういったところが企業の価値や強みにつながる部分もあるという議論かと思っておりますので、理解や認識の増進、普及啓発をしていくところが、課題であるとしております。

6 ページ目の下のところですが、「雇用や働き方」に関するところですが、有効求人倍率を見ると世田谷地域は、より人手不足が顕著な状況と見られ、事業者においても、そういったところの労働環境の整備や、ワークライフバランス、そういったところの整備というのは大きな課題として挙げられるのではと思っております。

7 ページ目でございますが、「起業・創業」についても、それが新陳代謝につながり、地域の活力に繋がる面があると思っておりますので、さらにその推進と裾野の拡大、そういったところを図っていくことが課題であるとしております。

以上のような形で、現状と課題を抽出しつつ、整理してございます。

次に、7 ページ目の3 ポツの「世田谷区の新たな経済産業政策の方向性」ということで、ここからが、メインなところとなりますが、まず、冒頭で、条例の説明をさせていただいて

おりまして、8ページ目に図表をつけてございますが、1年半前に条例の改正をして、経済的などころと非経済的などころを両立させることが大事だということをもとに提示しているというのを大前提として提示をしております。

その上で、8ページ目の下の部分ですけれども、これまでの議論の中でも、現在の産業ビジョンについては、踏襲すべきであり、産業振興の基礎としながら、発展条例に合わせた体系的な整理に加え、新型コロナを契機とする社会経済環境の変化により複雑化、多様化した課題等へ対応するための考え方や具体的取組みを整理し、改めて実行に移していくことが必要であるという前提の認識に立った上で、発展会議においては、この条例で掲げる理念の実現を目指して、産業政策の展望や考え方を整理するとともに、重視する視点を設定した上で、目指すべき姿及び、その目指すべき姿を実現するための方向性を提示するというもので、これまでの議論のプロセスについて記載をしております。

8ページの最終パラグラフでは、本提案を真摯に受け止めて、新たなビジョンを策定するよう要望すると、それは世田谷区地域経済発展ビジョンとして、具体的取組みを実効性あるものとするプランを検討するよう提言するというもので、提言の趣旨を記載をしております。

9ページ目の1番上に、「新たな考え方」ということで、「ビジョン」としてございます。現行の産業ビジョンではメインテーマという書き方をしてございましたけれども、今回、ビジョンという形で、要するには、全体が新たなビジョンとなるならば、このメインテーマというところもビジョンという言葉にするのが、より適切ではないかと考え、全体を一言で表す、展望、ビジョンということで、前回から言葉の使い方変えてございます。

先程の資料3でも申し上げましたとおり、ここは暫定的に最も得票の多かったもので文章を構成しております。「持続可能な地域経済でつくる世田谷のウェルビーイング」ということで、趣旨としては、現在の産業ビジョンでも、「区民・産業がつくる世田谷の新たな価値と豊かさ」というのをメインテーマとして掲げ、この下に、ありたい姿や取組みの方向性を整理してきました。

条例においても、豊かな区民生活という最終的な目標については踏襲をした上で、それを実現するためには、地域経済の持続可能な発展という1つ手前の目的を設定して、最終目的を達成しようという形に条例はなっております。よって、そういった意味で、豊かな区民生活という最終目標を踏襲しながら、一方で、この間の変化や多様化により、豊かさという言葉についても、例えば、経済的な豊かさであったり、人間関係であったり、属性、コミュニティ、キャリアなど、様々な豊かさがございますので、そういった意味で、多様な豊かさとか幸福を示す概念として確立されてきているウェルビーイングという言葉、概念の下で、それぞれの豊かさに対して経済産業分野から寄与することを、今後の新たな経済産業政策の中心に据えるものとして設定すべきだという文章としてございます。

こちらに関しては、後ほど議論の中で、全体テーマ・ビジョンが変わるかもしれませんが、その場合には、この文章についても修正が必要にはなると思っておりますが、暫定的な記載ということで、ご理解をいただければと思います。

次に、2の「ビジョンの実現に向けた大切な基本の考え方」ということで、これは、5月の会議でも、わくわく感が持続性につながり、持続性ある活動は様々なステークホルダーを巻き込み、共創を生み、共創がイノベーションを生んで、新たな価値を生み出すと。そうい

った循環の中で、さらにわくわく感が生まれるというような好循環が生まれるという議論をいただいておりますので、今後の新しいビジョンを実現していくためには、そういったところ、根底に流れる仕組みを作ることが大切じゃないかということで、ビジョンの実現に向けた基本の考え方という形で整理しております。

さらに、3の「ビジョン実現に向けた大切な視点」ということですが、今後、ビジョンの実現に向けて様々な取組みをしていく必要があると思いますが、全てを実施できるわけでもないということで、こういったところに焦点を当ててやるべきかということ、まずは、縦軸的に、政策の必要性、重要性、緊急性、波及度合い、そういったものは当然に加味するとして、さらに、それらがどうすればより効果的になるかという観点で、前々回からご議論いただいております内容ですが、これまで行政が実施してきた様々な個々の取組みから、課題や不足を抽出すると共通的な課題がくくり出される。それを、今後、必要な取組みを推進していく際の視点として設定して、さらには、先ほど縦と申し上げました、政策課題の重要性や必要性等と、横軸的な視点を組み合わせて、政策の優先順位付けや効果の最大化を図っていくことが重要という形で整理をしてございます。

10ページ目のところですが、「5つの視点」ということで、まず1つが横串としての「地域経済産業政策の視点」と、分野横断的に今後やっていく、さらには、各分野の横断の部分に経済政策、産業政策というのが重要な位置を占めて、横串として取り組んでいく意識や仕組みが必要じゃないか、そういう視点を持って今後取り組んでいく必要があるということでございます。

2つ目が、「インパクト設計」ということで、地域経済ですとか区民の暮らし、そういったところにどのような影響があるか、どのような効果があるかという、好影響を最大化するような設計をしていくべき、また、それをインパクト評価という形で、測定していく必要があると思っております。

3つ目が、「デザイン思考」ということで、ユーザー視点で使いやすい施策の設定や、4つ目が、「官民競争の視点」ということで、官や民だけでやるものも当然に多くございますが、それぞれの強みを生かして、施策の効果の最大化を図ることが今後さらに必要になるという視点を今後は更に持つということでございます。

最後に「プラットフォームの視点」ということで、価値観の多様化ですとか、必ずしも求めるものが1つに集約をされているわけではない。そういった時に、各自が活動しやすいプラットフォームを整えるというのが行政の今後の業務の重要なところを占めるのではないかとということで、プラットフォームの視点をもう少し強く持つ必要があるのではということでございます。

そうした時に、ゆるさのようなところが、キーワードになるのではと思ひまして、行政は制度を固める傾向にあるため、価値観の多様化と緩さみたいなところも考慮した設計により、より多くの方を巻き込むことができる、より多くの方の活動を後押しすることができるようになるのではないかとということで考えてございます。

こうした5つの視点を今後持って、経済産業政策を検討していくべきだという風な視点を入れさせていただいております。

10ページ目の下からは、「考え方の背景となった主な意見」ということで、こういった

ところから今のところを整理したというところで記載をしてございます。

12ページ目には、今申し上げたことと同じことが、絵で書いております。13ページ目ですが、各分野における政策の方向性ということで、こちらは、これから後に目指す姿の議論が出てきますけれども、ある種、縦軸で考えた時に、それぞれの大きな方向性を点線の中にそれぞれ記載をしてございます。

点線の中の元となった考えを、「考え方の背景となった主な意見」という形で記載をしてございますので、主には点線の中を見ていただければと思うのですが、「多様な産業基盤の強化に向けた考え方」というところに関しては、多様な産業が着実に根付いていると一方、これらの活性化はさらに重要であり、強化すべきであって、これからの時代は、既存の産業を中心に据えつつも、多様な産業の後押し、コミュニティとか学び、そういった特徴と融合したものが世田谷産業の新たな成長やステージの構築を後押しするのではないかと。また、後押しすることが必要であるというような形で集約しております。

14ページ目の2のところは、「多様な働き方の促進に関する考え方」ということで、住宅都市としての顔を持っていることから、多様化する働き方やライフスタイルに対応した土壌や環境を整えることが世田谷らしさを伸ばすと。さらには、世田谷の魅力の向上、ウェルビーイングの向上を目指し、個人の意思の尊重の上に、多様な働き方の選択肢の提供や自らの価値やウェルビーイングを高めることができる環境整備、後押しを進めるべきではないかということが、私どもの理解では、全体でのこれまでの議論なのかなという風に考えてございます。

14ページ目の「起業・創業に向けて」というところでございますけれども、起業・創業を促進するっていうことは、大きなコンセンサスだと思いますし、様々な活動にチャレンジしようとするアントレプレナーシップの醸成を促す環境整備を進めることが必要、それが中長期にわたって持続可能性に繋がっていくのではないかとということで、提言としてまとめているということでございます。

15の4ですが、「社会課題解決」というような点に関しても、意識が高い方が多い一方で、あと1歩の後押しというのは不足していると。裾野を広げることであったり、後押しや応援・支援させていただくことが、課題解決であったり、街の活性化につながるということで、そういったところが必要ではないかということで方向性をまとめております。

5の「エシカルや持続可能性」に関しましても、エシカルやSDGsに取り組むことが最終的には街のブランドですとか、企業の強みにもつながっていくので、啓発とか環境の整備を強化していくことが必要であるということでございます。

6の「チャレンジの促進とその応援に関する仕組みの考え方」ということですが、チャレンジには様々なリスクが付きものですが、前向きな挑戦を地域全体で支えていくことが重要じゃないかと。その上で、それは地域経済のメリットとして返ってくるということで、そういう応援の仕組みや場の構築、そういったところが必要じゃないかということで、大きな考え方として整理をしてございます。

17ページ目が、「目指す姿と実現のための方向性」ということで、今まで、申し上げてきたような方向性を、4つの基本的方針ごとに、目指す姿として整理をし、さらには、その目指す姿の実現に向けた対応の方向性について整理をしたというものでございます。これは、

前回までずっと議論してきた内容ですので、説明は省略させていただきたいと思います。

24ページ目に移っていただきまして、今まで長々とご説明してきたことを、絵に落とし込んでみたというものでございます。上の四角が、条例でございまして、条例についても、方針が4つあって、これは、上に伸びていくことが、地域経済の持続可能な発展に資すると、さらには、それが豊かな国民生活の実現に寄与していくものだとということで記載しています。その下に、ビジョンという形になっていて、今回、それぞれ4つの柱に、目指す姿を、2つから4つ設定してきました。目指す姿の実現度が向上すると、この柱の実現度が向上する。そうすると、地域経済の持続可能な発展というのが、より高度なところで実現をされ、それはより高度なところで豊かな区民生活の実現につながっていくということをイメージして書いております。

この4つの柱であったり、目指す姿がより向上するというのは、ベースのところで、わくわくであったり、持続性であったり、先ほど説明したようなところの仕掛けをすることで、柱が上に伸びていく、スパイラルアップみたいな感じでのイメージで描いております。それぞれの柱には、具体的取組み例なども記載をしておりますが、こういった取組みをやることで、目指す姿というのが伸長するというイメージをしております。さらには、その際には、縦軸、横軸の視点を今後さらに強く持ってやっていくことが大事だということを表現しているものということでございます。

25ページ目以降は、これまで提示していた資料を改めて再掲的に記載しております。実質的には、先ほど説明させていただいたところで引用しております。

答申案に関する説明は以上となります。

最後に、参考2をご覧ください。ソーシャルインパクト指標についてでして、これは、前回会議の中で大石委員からもソーシャルインパクトの例示を示してはどうか意見をいただいております。大変恐縮ですが、今回、具体例を提示することが間に合っておりません。したがって、今、検討しているところの考え方でご容赦いただきたいと思います。と書いてございまして、資料を用意した次第でございます。

2ページ目の「ソーシャルインパクト指標」とは、これは前回の資料でございますけれども、社会的な変化や効果を分かりやすく伝えるための指標ということで、3ページ目が、いわゆるロジックモデルと言われるものですが、アウトプットによってアウトカムを発生させ、それがインパクト、目指す姿に近いものですが、それを実現していくということで、前回提示させていただいたものです。

4ページ目に、「優れたソーシャルインパクト指標」とございまして、取組みが現状に影響をして、そこに変化が生じて目指す姿になっていきます。この変化の度合いや変化量を測定し捉えるのが、優れたソーシャルインパクト指標になると考えております。変化の主体や主語について、客観的に判断できる変化を指標化していくという作業が必要になってくると思っております。

6ページ目になりますけれども、例えば、これは、基本的方針3のソーシャルビジネスですが、目指す姿として2つあり、対応の方向性がある、取組み、提供方法があります。目指す姿については、誰のどのような変化によって表現できるかをまず考えていき、2のところの各取組みがその指標の前進に寄与するようなものになっているかということを確認し

ていきたいと考えてございます。

7ページ目ですが、どんな変化を経て、地域課題や社会課題に参画するまでに至るかというところに注目をして、8ページ目、例えば、区民の方の変化として、課題の存在を知って関心を持っている、その上で、解決するための行動を起こす、参画するというプロセスがあるとすれば、10ページ目、課題解決に参加するための行動を起こすことの判断する基準としては、例えば、情報収集があるので、直近1年間で情報収集したことがある区民の割合を設定していくのが、ソーシャルインパクトとして良いのではないかというような考え方の流れを提示させていただいてございます。

従前から申し上げておりますとおり、様々な指標が複雑に絡んで、地域や暮らし、そういったところにどういった影響・インパクトを与えるかということで、それがより大きくなるようなことを捉えられる指標を作っていきたいと考えております。

本日の時点では、具体的にお示しすることはできておりませんが、こういった流れで検討を進めていって、答申を受けた後で、今後、行政が策定するビジョンの中には、こういうところを提示していきたいと考えております。

本日は、意見をいただいていたところへの回答ができない状況で大変申し訳ございませんが、こういった形で今後の検討とさせていただければと思っております。

長くなりましたが、説明は以上です。

【長山会長】

ありがとうございました。それでは、意見交換に入りたいと思います。まずは資料3について議論し、これまで議論してきた内容を踏まえた全体のテーマを決定したいと思っております。事務局からの説明にもありましたが、多くの案を委員の皆様からもいただき、かつ、その中から複数の候補として挙げている状況です。答申案には、暫定的にその中から最も意見が多かったものを記載しておりますが、どのテーマがふさわしいのか、意見をお願いしたいと思っております。

資料3でナンバー1から5までメインテーマ案という形で出ていて、裏の方には45の候補が書かれております。事務局の先程の答申案での説明ですと、1の「持続可能な地域経済でつくる世田谷のウェルビーイング」を仮置きで答申案を作成いたしました。1のところの言葉を少し変えていくというようなことでの意見でも良いと思えますし、全く違うご意見を仰っていただいても結構です。それではと挙手制ということで、ご意見のある委員の方から順番に挙手をお願いいたします。

【田中委員】

前回の会議で、このテーマのことを私から言い出したので、皆さんからたくさんご意見、案が出て本当にありがとうございます。まずはお礼申し上げます。今絞られている5案の中から決まるので良いのではと思っておりますので、是非決まっていたきたいなと思っております。とても満足しています、ありがとうございます。

【長山会長】

田中委員からの発案で、このアンケートのような形で意見を聴取して45件。45件もどのように出てきたのですか？

【納屋産業連携交流推進課長】

特定の方からたくさんいただいたものもございますし、いくつか私も書いているところもございます。

【長山会長】

関係している方が書かれているということですか。

書かれた方がこういう思いでこの案を出したというところの説明があると一気に覆るかもしれません。アンケートに答えられた方々を中心に発言していただけるとありがたいです。

【長山会長】

それでは吉田委員。

【吉田（亮）委員】

私も書いたのですが、この5つの中に入っていないと思いつつ、世田谷のウェルビーイングってものを拝見した時に、世田谷らしいと思って見ていました。改めて見るとウェルビーイングってつくるものなのか、創造するものなのかと疑問に思いました。ウェルビーイングは概念だと思うので、世田谷のウェルビーイングを選ぶと、つくるか創造するという表現が良いのか、実現するか目指すとかの方が良いのかは、改めて拝見した時に感じました。

また、「持続可能な地域経済でつくる世田谷のウェルビーイング」というのは、持続可能な地域経済を目指すとして宣言するか、世田谷のウェルビーイングを目指すとして宣言するのか。どちらも目指すことを表現する言葉で、目指すことで目指すというような、イメージが湧きにくいなと感じたというのがあります。改めて見ると、「つくる」はどうかと思ったところなんです。ですので、世田谷のウェルビーイングとここで言い切ってしまうのは、地域経済の発展会議目指している中で、ウェルビーイングと言うのかと思ったというのが、素直な感想です。

【大藤委員】

ありがとうございます。私もこの5案、すべて素敵だと基本的には思っています。私が特にいいなと思ったのは4と5ですが、この答申案を見ていて、改めてこの9ページにある基本的な考え方が、この答申のコアになってくるという時に、そこが循環するや廻るや、繋ぐということも表現されているのだろうと思います。この答申の中心になる考え方が、メインテーマのワードとしても表現できているとより良いと思いました。

1番は、確かに私は気付かなかったのですが、持続可能な地域経済というところは、3、4、5も、やりながら目指していくものなのかなと思ったので、一部だと間違っていないのですが、テーマとして広くなると感じました。

【長山会長】

ありがとうございます。今、世田谷の基本計画という最上位の計画を議論しており、大綱が出て最終的な検討段階です。むしろそちらで4、5は最終目標のイメージはあります。

ここは経済産業政策なので、そこを何らかの形で表現しないといけない。昔のビジョンは、産業創造だったのですが、新しいビジョンではそこを持続可能な地域経済の言葉に変えました。産業ビジョンを踏襲すると言っておりますので、その言葉が何らかの形で残っていないといけない。

【田中委員】

私も先ほどの産業ビジョンについて、発展条例そのものの言葉が入っている方が提案としては直接的で良いと、伝わりやすいと思っています。実は45案のうち10案は私が出しています。私が言い始めでしたので、4と5も私が作っています。どちらかということ、4と5は産業に関するものというよりは、もっと広めの言葉遣いになっています。

4に関しては、「幸循環」という当て字で作っているのですが、これは曲者と言いますか、伝わるのかどうかということところです。コピーライターの発想が混じっているのです。そこは賭けになるというのは自分自身でも思っているところです。ただ、こういう考え方もあるよという、チョイスの中で色々なバリエーションを出して、たまたま残ったというような内容だと思っています。

5に関しては、「持続可能な地域経済」という言葉にあまり触れていなくて、より広めのテーマになるので、考え方を1つに絞るにしても、ウェルビーイングについて、つくるものなのかというご指摘は確かにあるなと思っていたので、割と実現するでも良いと思っていました。

ですので、地域経済という言葉を入れて1に絞るみたいな意識なのか、それとも5ぐらいの広いテーマにするのかという、考え方によって違うと思います。それは皆さんで議論して考えていただければ良いと思っています。以上です。

【見城委員】

どの案がメインテーマになっても良いと思いながら見させていただいた。ご説明があったように、テーマ案4や5は広いイメージがあると感じた。「選択したメインテーマに対する意見・感想」の上から2番目は私の意見だと思うが、このとおり、「持続可能」という言葉は入っている方が分かりやすいと思ったので、「持続可能」や「サステナブルな循環」というワードが入ると良いと思います。また、区民の姿というものも入ったら良いと思います。

テーマ案1は長山先生からご意見があった「ウェルビーイングをつくる」ということの違和感には共感した。一方、私はその言葉自体を見ていて、「持続可能」というものと「区民の姿」というものが入っていると、メインテーマにふさわしいと思っています。テーマ案1を変えていくのが、端的にわかりやすいと思います。

【吉田（凌）委員】

すべて素晴らしいと思いますが、2番が良いと思っています。

先ほどから、「つくる」「創造する」と意見が上がっていますが、主体的に変えていかないと世田谷は変わっていかないと考えているので、そういった意味では「区民が創造する」と主語をワードとして入れることによって、ここにいる人以外の人が見たときに、自分もやろうと思えるのではないのでしょうか。「創造する」という概念自体は素晴らしいし、今後何かを変えていくうえでも持続可能な発展を遂げていくうえでも、主体的なワードが入ってくる必要があると感じています。

【千葉委員】

意見を出さずにすみません。

この中のメインテーマ案は方向的に間違っていないし、どれになってもおかしくないと思いますが、この資料を答申案として出した後は、それから先も生きていくものなのでしょうか？

要するに、我々がこの場で決めたものが、世の中に出ていくことになるのであれば、シンプルなものの方がいいと思っています。短い方が理解しやすい。

このメインテーマは誰に向けたものなのか。区の経済産業の指針を決める人たちに刺さりやすいものと考えれば、シンプルなものを選んだ方がいいと思います。

そういった意味ではテーマ案2は良い。また、テーマ案1も「つくる」を外すだけで、日本の軸を両方進めていくということが分かりやすくなるので、説明をうまくできるような資料をつくるのもありますが、説明つくものの方がタイトルとして良い。

【納屋産業連携交流推進課長】

今回、答申という形で、我々が頂いて、それを非常に重く受け止めた上で、ビジョンを作っていきます。ビジョンには様々な政策や予算などが紐づいていきます。政策や予算などの基本的な方針になっていきます。我々も答申をいただいた上で、中で様々なプロセスをクリアした上で、最後にビジョンを作成するときに、経済産業分野が設定するメインテーマとしてふさわしいのかという観点は非常に大きくなります。経済産業分野が掲げるには大きすぎるのではないかという議論は容易に想像できます。

【長山会長】

答申案2 4ページ、図表1 4が、この後、集中的に議論すべき事と思いますが、その中にもあるように、仮でビジョン案がタイトルのような形で書かれているので、おそらくビジョンの表紙になると思います。

表紙というのは、まさに答申案に書いてある内容を一言でコンセプトをまとめた形で表すものです。そういった意味でも、一番説明しやすいものがテーマ案1だったのだと思います。

【市川委員】

テーマ案1について、例えば「持続可能な経済循環でつくる…」というのはどうでしょうか、という提案が一つと、ウェルビーイングについては、東京都市大学の坂倉先生も著者で入っている本の中に、ウェルビーイングというものは、私たちの間につくりあうものだと述

べられています。

私はその感覚がとても好きで、ここでそれを言うと難しいと思いますが、ウェルビーイングは個人のものや誰かのものではなくて、私たちの間につくりあうという概念が、その本に書かれていて、とても素敵だと思っています。「つくりあう」か「私たちの間に」という言葉が表現できればいいと思っています。

そういう意味では、テーマ案4は、テーマ案1でテーマをつくりながらも、テーマ案4がキャッチフレーズのように使われていくといいと思います。テーマ案4は、チャレンジングであるというお話もありましたが、幸せが循環するという意味もあれば、幸せな循環が起きるという読み方もできたり、ともにつくり合うという意味合いもありますし、世田谷という言葉には、もともと人の暮しが見えるという素敵な土地の名前だと思っています。なので、世田谷というのが掲げられている段階ですでに何か「私たち」が表現されているので、私も、「持続可能な経済循環でつくる、世田谷ウェルビーイング」とするのが一つの提案です。また、テーマ案4も捨てがたいので、何らかの形で使えたらいいというのが私の意見です。以上です。

【長山会長】

サブタイトルとして入れることは、可能でしょうか。

【田中委員】

テーマ案1を表紙のメインにして、テーマ案をキャッチフレーズとして使うということはコミュニケーションとしてはありだと思います。

表紙がデザインされた時に、テーマ案1が表紙として入っていて、裏側に「幸循環 共創区 世田谷」と三文字が収まるようにして入れます。三文字が三行で収まるので、非常に文字列がいいコピーです。それが判子のように裏表紙にあると、そこだけキャッチーだけれども、あまり表に出しすぎないサブ・サブキャッチコピーのような扱いで使っていくのがいいと思います。メインとサブ、表と裏、というような使い分けはコピー業界でもよくやる手法です。行政のコミュニケーションでその作り方を徹底できるのであれば、2つ使う方法も可能性としてあると思いました。

【長山会長】

その発想はなかったもので、すごくいいと思います。

テーマ案1を中心に、テーマ案4はそのサブということでビジョンに反映してもらえればなと思います。また、区民に対してもビジョンの作成においてパブリックコメントなどでも意見をもらい、また少しずつ変更があるかもしれません。我々の発展会議の中で、答申案という形としては、そのようにまとめていければと思います。

【吉田（亮）委員】

原稿の産業ビジョンの「区民・産業がつくる」というのはすごくいい言葉とっていて、区民がテーマに入っていることが世田谷らしいなとっていたので、これが残るといいです。

区民と産業という概念、共創するという言葉も誰と誰がということが明確に書かれていたの
で、継続されてそれが発展されるといいなと思います。

【納屋産業連携交流推進課長】

「区民・産業でつくる持続可能な地域経済の世田谷のウェルビーイング」というようにす
べて盛り込みたくなってしまいます。

【吉田（亮）委員】

「持続可能な地域経済」は「循環」とほぼ同じ言葉だと思しますので、そのあたりを整理
していくとまとまってくるのではないかと思います。「共創」と「区民・産業」も一緒であ
るし、「ウェルビーイング」と「幸せ」も同様かと思えます。すべて掲げると too much お腹
いっぱいではないかと思えます。

【見城委員】

「持続可能」と「循環」を並べるというよりも、どちらかが入っていれば、まとまってい
いと思っていたので、長いよりも短い方がいいと思います。そこをうまくまとめていただ
けるといいと思いました。

【長山会長】

今日意見をまとめることは難しいので、事務局の方で案を考えて、メール等でご意見いた
だきます。メインテーマに主語を入れるか入れないかという点が一つ。

これまでは産業創造という言葉が使われていて、それが現行の産業ビジョンでは産業に着
目をしていたが、今回は産業だけではなく地域経済と視点を広く持ち、条例を改正したとい
う流れです。

主語は、区民や企業だけでなく、より多様な主体が関わっているものです。関係人口のよ
うに世田谷と関わっている区外の方も含まれています。

主語を入れると分かりやすいが、主語を出すことによるミスリーディングも起こりうる
ということを踏まえながら、事務局で修正をお願いします。

様々な意見をくださりありがとうございました。

【長山会長】

続きまして。資料4の答申案の議論に移りたいと思います。これは見城委員から時計回
りにお願いできますでしょうか。図表14を中心に議論していただくということでお願いし
ます。

私も事務局と会議の直前に話をしていたのですが、5つの視点は横軸で、この横軸に関し
ては縦の四本柱に優先順位をつける際の視点となるということでした。1から5まではこれ
まで議論してきたことなので腹落ちしましたし、分かりやすいと思いました。しかしながら、
さらに下部の「実現に向けた大切な基本の考え方」と書いてある部分はもう少し練られた方
がいいという印象を受けました。「持続性」「共創」「新価値創造」「わくわく感」がどのよう

に関係しているのか、ただ言葉を並べているだけなのか、ワクワク感があって持続性があってそれが共創になって新価値創造というその関係に順番があるのか、説明してください。

【納屋産業連携交流推進課長】

これは、第2回とか第3回でご議論いただいたことで、前回もお示しをさせて頂きました。

ワクワク感がまず大事ではないか、ワクワク感があるから、持続的な活動や取組みにつながっていきます。単発に終わらせるものではなく、持続的な活動に仲間が集まり、ステークホルダーが集まり、多様な人が集まれば、そこに協働が生まれ、そういった活動で新しい価値イノベーションが起きるといふ、循環を表現しています。新しい価値が生まれて、新たないいことが起こるところには、またワクワクすることが起こって、それがまた回っていくといったイメージで書いています。

順番で言えば、「ワクワク感」「持続性」「共創」「新価値創造」の順番になります。

【長山会長】

分かりました。では、その周りにある応援や巻き込み、ごちゃ混ぜというのは、付随しているものでしょうか。

【納屋産業連携交流推進課長】

周りの言葉は特段場所を気にせず並べています。位置はあまり考えていませんでした。

【長山会長】

なるほど、わかりました。

【竹内委員】

9ページに同じものがあります。

【納屋産業連携交流推進課長】

同じ物を書いています。平面と立体の違いです。最後には同じものにしたいと思っています。

【長山会長】

土台の上に柱が乗っていて、柱が上に伸びていくということですか。ソーシャルインパクトの指標が書かれていたように、この柱ごとに柱が伸びていくと、インパクトが高まり、その指標の成果が見やすいというご説明だったかと思います。よく練られて描かれていますが、皆さんからも、答申案全体を通じて、ご意見をください。では、見城委員、お願いします。

【見城委員】

図を見たときに、説明いただいたので納得したのですが、下から持ちあげていくという感覚にはならなかったです。説明をいただくと、柱があって、それぞれが伸びていくということ

がこの絵でとても伝わってきました。

とても難しい話ではあると思いますが、説明を受けていないと、下から土台という視点には至らず、上から順に降りる視点にはならないので、工夫が必要かと思います。

このイメージ図でいえば、内容に関しては今まで話してきたことなのでまとまっていると思いますので、突っ込んで意見をすることはないが、一つだけ、エシカル担当から言わせていただくと、やはり消費だけの話、エシカル消費を謳っているけれども、それだけではなく、働き方や人権の話にも関わってくる、とても重要なポイントであると思います。ここに言葉で表すことは難しいのですが、うまく伝えることができればと思います。

【長山会長】

15ページの⑤の話ということでよろしいでしょうか。

【見城委員】

エシカル消費の推進と謳っているのですが、それを一括りでまとめるのはありますが、エシカル消費にかかってくるためには、他の働き方のかたちに関係してきます。結局、すべては繋がっているからなので、そういうところが、何か言葉で表せるかどうか分からないのですが、多様な働き方の中にも、その働き手がどのような環境で働けるのかということも入ると、よりいいのかなと思いました。

【長山会長】

これは縦軸の柱ごとに、その説明が書かれている。(2)からの13ページからの話はそういうことだと思います。その縦軸の四つの柱ごとの説明が必要ということでしょうか。

【納屋産業連携交流推進課長】

基本的にはそこを意識して、起業、創業、働き方を分けており、少しだけ細分化をしています。また、チャレンジのところは全体にかかる部分(⑥について)もあるかと思ったので、そこだけ少しはみ出している形になってございます。

【長山会長】

前回の会議内で委員がなぜ提案書を出したかという、4つの柱にしてしまうと、エシカルはどうしても4番目の柱だけに該当してしまう。だから、見城委員たちはエシカルタウンという形にして提案し、商店街や農業とも関係するような形で一つの象徴的なプロジェクト案を出したということです。

横軸の視点で考えた場合には、どういう案が出るのか。何らかのモデル(象徴的なプロジェクト)を示さなければ、読者にイメージが伝わらないのではないかと懸念します。5つの視点で、横軸で見た場合、どのような事業が生まれるのか、委員提案のようなモデル案を示す必要があります。

【見城委員】

無理難題をすみません。やはり横の関係性が、この図だとあまり見えてこない。柱さえ伸びれば、そこで繋がるというのは難しいと思います。せっかく繋がりというところを、この場で、みんなそうだねとなったはずです。それぞれの部門やその柱については充分話し合えているので、それをさらに横にどう繋いでいくかが、それこそ世田谷をどう盛り上げていくかということになるというイメージでいると、やはりこの図は一本一本のイメージが強い気がするのですが、横が見えてくるといいという気はしました。

【長山会長】

5つの視点を入れているけれども、その5つの視点を入れた形で何かの具体策を描けないと、結局は4つの柱で縦割りにそれぞれ説明しているものと受け取られてしまいます。

【千葉委員】

僕も見城委員の話と同じで、話を聞いたから理解できるっていうのはあります。僕もこれまで会議をやってきていたから、「こうだよ、ああだよ」ということが分かるのですが、見やすいか見にくいかなの話はここでする話ではないと思うのですが、横軸の話がどのように入ってくるのかが分からない。具体例を入れれば、すんなり落ちるのではないかと思います。

また、資料の文字が小さい。これは僕の目が老眼になってしまったからですが、見にくいです。

僕も資料を作るときに同じような考え方で、どうしたら見やすいかということを考えます。土台があるから下から上という考え方なのか、あくまでも分けた方が理解しやすいのか、考えます。僕がパッと見て資料のことを考えるのであれば、四つのものがA3一枚で入った方がいいと思います。横から横向きに作った方が分かりやすいのではないかと思います。資料を作る側の気持ちを考えると、一枚したらこうなるよねということが具現化されていて、大変だろうなと思いました。ただ、内容的には、その具体例が入っている方が理解しやすいです。進行状況の話も含めて、そのとおりだと思います。基本的にはこれで概ね理解できます。あとは見せ方の話になると思います。以上です。

【長山会長】

ソーシャルインパクト指標も4本の柱の1本だけを伸ばすというよりは、横軸の視点を入れた4本柱全てにインパクトを与えるような一つの事業があるほうが良く、それがモデル事業ということになると思います。では、田中委員。

【田中委員】

図表14の話で、私はデザイナーなので、こうすればいいというのが頭の中にあります。人間の目は、視点の動きが決まっています、Zを書くように上から下に移動します。なので、どうしても上から見てしまっていて、下から読ませるとするのは、すごく力技になります。なので、もう人間の習性を利用して図の方を考えるしかないのですが、どうすればいいかというと、例えば、豊かな区民生活の実現というのが、トッププライオリティなので、真ん中に旗

立てて真ん中に置いて、その周りに4つの基本の方針とか4つの柱を。そして、2つの円があり、下の円には、持続性、新価値創造がある二層構造にするというのが、一案かなと思います。

もう一点、5つの視点の中で、デザイン思考の視点と言うのは、少し不安です。デザイン思考はいろんな人からいろんな言葉で語られてしまう難癖ある言葉だと思います。ここで言いたいことは、ユーザー視点でその政策を考えるべきという事です。なので、デザイン思考という言葉をやや使わず、ユーザー視点もしくはユーザーだけではなく、もっと環境視点というところもあるかと思えます。人間のことだけを考えないという、自然環境とか、特に多摩川もあるので、そういう自然を配慮するという意味合いの視点を語ればいいのかかなと思っています。なので、デザイン思考という言葉が、図表14の一番下に入ってくると思うので、今のうちにこの難癖ある言葉は整理しておいたほうがいいのかかなと思いました。以上です。

【長山会長】

デザイン思考の視点は10ページに説明があり、説明を見るとわかるのですが、確かに私もここが唯一まだ腹落ちできてないところでした。それぞれの概念があるので、ユーザー視点ということをお願いならば、それでいいと思います。区役所の立場からすると、なるべくわかりやすくして、区民全員・事業所全てに施策を届ける努力が必要ということもあります。また、施策を作る時にも、ユーザーからの意見を取り入れて、制度設計していくということが必要ですので、ユーザー視点という方が適切でしょうか。では、大石委員、お願いします。

【大石委員】

僕も皆さんと同じように、ずっと会議に参加しているので、下から上ということについては、充分理解でき、なるほどと思って、上に伸びていったらこれが持ち上がるのかと。多分、納屋さんが、資料を作りながら、「お、なんかいいの思いついた」と思ってわくわくして作られたんだろうなという想像ができて、僕自身は、考えがよくわかったと思いました。

この中で図にしてみると、SDGsとか共創とかアントレプレナーシップとかソーシャルビジネス、エシカル、ウェルビーイングという、流行りのサステナワードが全部入っていて、納屋さんや、後藤部長の思いが入っているのだろうと捉えました。

先ほどのビジョンの話に戻ってしまいますが、今の産業の構造自体が新しく環境変化をしていて、そこに対して、こういう産業方針を立てられて、新しい時代にマッチさせようとするのが、この答申の中身だとしたときに、ビジョン案でウェルビーイングという言葉で括るのは、本当に納屋さんや後藤部長の思いが括れるのかと思いました。また、そこから派生して、1年前くらいに富山県が掲げていて、富山県がウェルビーイングという新しいワードを掛け合わせるから新しさが出るのだと思うのですが、世田谷区がウェルビーイングというと、逆に時代遅れ感があります。むしろ納屋さんとか後藤部長が考えていらっしゃるワードがあると思うので、委員のみなさんの意見を参考にしつつ、自分で考えたほうがいいのかと思います。みんなの意見を取りまとめていると、結局わけわからなくなっちゃうような気がして、すご

くいいワードもいくつかあったと思うのですが、それは活かしつつ自分で考えるのがいいと思ったのが、率直な感想です。

【市川委員】

下から上に上がっていくというところで、イメージするなら土壌と木とか幹がいいと思い、デザインを入れられるともっとわかりやすいと思ったのが一つです。

また、別途吹き出しで描かれていることも読み解きに重要なのではと思いました。一つ一つじっくり読んでいくというより、パッと掴んでこういうことが起こるといえるのが見えてくるといいと思いました。

あと、やはり事例が、つまりこういうことですよというものがあると理解しやすくなると思います。なので、私はこの吹き出しに書かれているプロセスなのか意味合いみたいな、文字の多いものをザクっとつかむなにかになるといいと思ったのと、やはり事例、つまりそういうこういうようにオーダーすると、こういうプランになるみたいなことが何らかの形でひもづけられるといいなと思いました。以上です。

【吉田（亮）委員】

二つありまして、このわくわくの絵を見た時に、これがビジョンの言葉と連動するとすごくいいと感じて、大石さんのおっしゃる通り、この絵が一番、納谷さんたちが表現したいことが表れていると感じました。

なので、この絵とビジョンの言葉が連動するといいと改めて感じ、循環もいいとまた思い始めていたところです。

また、2つ目の24ページのところに関しては、ソーシャルインパクト指標の資料も拝見して、僕の理解では、この目指す姿の1から4にある程度、指標を設定して、それを実現していこうという形になると思いました。そのときに、この具体的取組み例というのは、柱ごとに取組みが出てくるというより、4つの柱を横断した施策をやった方が、少ないリソースで、指標を全部上げることが実現されると思いました。

例えばインキュベーションプログラムを世田谷でやっていこうとなったら、一番左の柱の意欲や思いのある人の話や、2つ目の柱のアントレプレナーシップの話、ソーシャルビジネスの地域課題の取組みといった、横断的に指標に効いてくる施策があると思いました。

なので、このように基本的方針ごとに施策をやるものもあると思うのですが、横断的にやるものもあるはずなので、切り離れたほうが、具体的に何やるかということ考えた時に、インパクトのある施策とかにリソースを集中できるのではないかなと感じました。切り離して整理するというのもいいと、この絵を見て感じました。以上です。

【兒玉委員】

柱が支えて伸びていくというのは、納屋課長の説明を聞いてわかる場所があり、柱の議論も横断的にという指摘があるように視覚的につながっているとわかった方がいいと感じました。

一方で、これがまとまって周りの仕事をしている、昔から働いている人達にこれをどう説

明しようかなと考えたときに、その人たちが決して置いてけぼりになっているわけではなくて、今仕事している人たちを基盤に、みんなで応援しながら新しい挑戦を一緒にやってみようということがイメージでわかるといいという感想です。以上です。

【大藤委員】

私は図表14の考え方に関しては、ほかの皆さんと同様、本当になるほどと思いました。下から上に行く書き方を工夫するという意見もあったと思うのですが、私は逆にこの下から上に行くのも、この一番下にある循環の図が下支えになっていて、それが上にいって目指す姿というところにつながっていくというのが、わかりやすかったので、この下から上に行くのをそのまま活かしてもいいと思いました。

ただ、下から上へというのが分かりにくいという意見があったので、木にするのか矢印をもっと目立つようにするのかなど工夫は必要なのかもしれませんが、私はこの構成はなるほどと思いました。

あとは、細かいところですが、下の循環のぐるぐるは、すごく納得感があるのですが、たしかに周りに散らばっている要素というのが、ここに紐づいてしまうように誤解したので、空中に浮いてるように距離を離すとか、細かいところですが、紐づいているわけではないということが見えるようにしてもいいのかなと思いました。ただ、全体的にはすごく納得があると思いました。

【松原委員】

この図でいきますと、一番下の実現に向けた大切な基本の考え方の下にもう一つなにかあると思っています。みんながコミュニケーションとれて、交流の場がないと、こういうことはそもそもありえないと僕は思っています。

あとは、4つの目指す姿の柱の主語が全部、世田谷区になっていると思います。例えば、「地域の事業者が安心して事業を継続できる世田谷区」となっているのですが、私は、これだとぼやけてしまって自分事ととらえられないなと思ってしまいます。なので、これが適切な言葉が何か見つかればいいなと思って、皆さんのご意見を聞いていました。それこそ、具体的な施策等が入ってくれば、もしかしたらわかりやすくなり、参考になると思いながら聞いていました。以上です。

【城田委員】

よろしくをお願いします。全体的に考え方が素晴らしいと思います。私も年寄りなものですから、カタカナが多いとどうも入ってこないです。その辺りをもう少しわかりやすい言葉にしていただけると理解が進むと思いました。以上です。

【吉田（凌）委員】

僕も松原さんと全く一緒に、もう一個下に階層があるということは同じ意見です。あとは、青の上に黒の文字を書くというのが、見にくいと思いました。これは田中先生にお任せすると思うのですが、もう少し見やすくするというのが大事だと思いました。

細かいところで言うと、「起業の促進、多様な働き方」の3番の「アントレプレナーシップが発揮される世田谷区」というところで、これは応援する側の人の方が含まれていないと思ったので、「発揮されやすい」という言葉の方が、アントレプレナーの人とそれを支援する側の人も含めるような表現になると思いました。

あと、「持続可能性およびエシカル消費の推進」[というところで、4番の産業分野からウェルビーイングに貢献する]というのは、ビジョンから詳細を見て、またウェルビーイングに戻ってしまうので、表現を変えた方がいいと思いました。以上です。

【竹内委員】

図表14については、この間の議論を反映した非常に力作だなと思い、納得できるものです。

ただ、ここで描かれている視点を具体的な答申文中にどのように表現するのか、大変な作業かと思います。現状の文章を読むと、反映されているようには思えないです。

事例というお話が最初にありましたが、そういうもので出していくのか、方向性で表現していくのか。でも、全体に関わることだから、結局同じことを書くことになると思うので、すごく難しく、その辺はどう考えているのでしょうか。イメージとしてはわかるのですが、答申文が必要でしょうから、そこをどうするのか議論しなきゃいけないところだと思います。

【長山会長】

ありがとうございました。一通り答申についてのご意見をいただきました。

【納屋産業連携交流推進課長】

いろいろな意見をいただきまして、ありがとうございました。

図表14につきましては、ご意見を踏まえて考えさせていただくのですが、我々事務方の限界もありますので、可能な限り考えさせて頂いた上で、一定程度の妥協をお願いすると思っています。一方で、答申を受けて、ビジョンを作る際には、最大限尊重させていただいたビジョンを作ることになると思います。

そうした時にはプロの方にも入って頂いて、絵も書いていきたいと思っております。ですので、答申をもとにビジョンを作る際には、もう少しきれいになっていると思います。まず最大努力をしたいと思っております。

【長山会長】

最後に、私からも何点か意見があります。2番の「世田谷区をめぐる地域経済産業の状況、課題」について、もう少し資料を加えていただいた方が良いと思います。

一つには、廃業の問題、小規模事業者の廃業が増えているといったデータを追加してもらうこと。今の図表では事業所の数の推移が出ていますが、特に変化がないように見えます。しかしながら、規模別で見れば、おそらく、小規模事業者の方は減っていることでしょう。世田谷の課題なのかというところを、資料で表していただく必要があると思いました。

決定的なのは、DXの話が全くないということ。資料にはSDGsの問題意識があまりないと

いうデータがありましたが、DXについてはどうでしょう。目下、事業者向けのアンケートをとられていると思うので、DXに関するデータがあれば入れてもらったらどうかと思います。

世田谷区ではインターネット附随サービスが増えてきていて、域外からの移転も増えている。SETACOLORを通じて、「支援ビジネス」が新たに興るという話がありました。この点もデータで示せればよいかと思います。

解決策はかなり重点的に書かれているので、事務局の方は基礎調査の解答を持っていると思います。答申には、解決策だけではなく、その背景や課題に関する証拠も併せて入れておく必要があると思います。

【納屋産業連携交流推進課長】

DXに関しては、3月20日の第一回会議で、SDGsの図表と並べてお出しさせていただいていたのですが、ここに集約する過程で、漏れてしまっていますので、ご指摘踏まえて修正させていただきたいと思います。

【長山会長】

この答申案の方向性としては、了承の方向で合意が得られたのではないかと思います。今後、また気づいたタイミングでご意見を頂き、ご欠席されている委員の方もいますので、最終的な確認は、会長一任でお任せいただけないかと思うのですが、よろしいでしょうか。

全員、了承

ありがとうございます。では、そのように事務局と進めていきたいと思います。

それでは最後に、参考の2について、ご質問やご意見があればと思います。参考2というのは、ソーシャルインパクト指標のことです。今後、事務局の方で、こうした指標を作成していくということで、ここでは方向性だけ示させてもらったということになります。

産業ビジョンが出来上がったときは、この指標もセットで出されるということでしょうか。スケジュール感を教えていただければと思います。

【納屋産業連携交流推進課長】

今回、答申にインパクトが大事だという視点を書いていただいて、これを受けて我々としてはソーシャルインパクト的な評価軸を作っていくという流れになります。こういった形で答申いただければ、我々としてはそれをもとに産業ビジョンを作る際に、その一部としてインパクトについても考えていきたいと思います。そういった意味では、今後の進め方としましては、答申について、最終的に会長の確認を頂きセットされれば、10月中旬か下旬くらいに本会議からの答申ということで、諮問者に対して答申をいただきたいと思っています。

さらには、繰り返しになりますが、その答申を受けて、我々はビジョンづくりを始めさせていただき、その中でソーシャルインパクトを何に設定しようかという議論もさせていただきます。

また、次回会議を12月18日に開催させていただきたいと考えています。その際には、

ビジョンの素案とインパクトの指標が入ったものをお示しさせていただくことを想定しています。

【長山会長】

ありがとうございました。12月18日にはソーシャルインパクトの指標が出てきて、地域経済発展ビジョンの素案も出るということです。

次回は12月になるということですが、最後に事務局より連絡事項をお願いします。

【納屋産業連携交流推進課長】

本日の会議録につきましては、作成の上、皆様にご確認を頂いて、ホームページへの掲載をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。また、スケジュールにつきましては、先ほど申し上げた通りでございます。事務局からは以上です。

3. 閉会

【長山会長】

それは第6回地域経済の持続可能な発展を目指す会議は、これにて終了致します。本日は長時間ありがとうございました。